

心の傷を乗り越えて

園長 川嶋 佳恵

2学期が始まりました。久しぶりに学級のみんながそろい、顔を合わせると、うれしそうに微笑み合ったり、おしゃべりをしたりして再会を喜ぶ様子が見られました。

2学期は、楽しいことがいっぱいあります。心も体もひとまわり成長して、たくましくなり、様々な遊びや活動、行事に積極的に参加し、楽しさを味わいながら充実した時間になることと思います。私たち職員一同、様々な場面で、子どもたち一人ひとりが力を発揮して、輝く笑顔が見られるよう尽力してまいります。2学期もよろしくお願いします。

今月は、私の推しのお話をします。3年前に競技生活から退きプロフィギュアスケーターとして活躍されている羽生結弦選手。これまでのフィギュアスケート界でのプロは、技術面よりも表現力、芸術性重視だったので、プログラムの中でのジャンプも失敗するリスクのある3回転ジャンプを回避して、2回転ジャンプにしたり、そもそもジャンプは入れないでスピンやスパイラルなどの技術要素で魅せたりするということも珍しくありません。まして、4回転ジャンプのようなハイリスクなジャンプは、入れないのが普通だったのです。しかし、羽生選手は、プロ転向にあたって、「フィギュアスケートはスポーツなので、芸術性だけでなく、技術も更に磨いて、4回転アクセルジャンプにも挑戦しながら、これからはプロのアスリート＆アーティストとしてワンランク上のステージで頑張っていきます」と決意表明をし、この3年間毎年のように自分一人で2時間半のアイスショーを行ってきました。このようにフィギュアスケートに特化した様々な挑戦を続けて他を超越し、プロフィギュアスケーターの位置付けを大きく変化させています。

さて、そんな羽生選手ですが、2022年2月の北京オリンピックでは、ショートプログラムで氷の穴にスケート靴のブレード(スケート靴の刃)がはまってしまい、得意だった4回転サルコージャンプが1回転サルコーになるという不運に見舞われ、更にフリーでは前人未踏の4回転アクセルジャンプに挑戦したものの、転倒して総合で4位となりました。この時、できる限りの努力をし尽くし、「今の自分が今までで一番スケートが上手だ」と明言できるほど技術面でも芸術面でも他を超越した羽生選手ですから、本人の悔しさや努力が報われなかった無力感、心の苦しみは計り知れなかったと思います。「努力は嘘をつく、でも無駄にはならない。」と常日頃から言っていた羽生選手ですが、この時ばかりは、「努力って報われないなあ…」という弱気な言葉も残しました。

その後、半年ほどたって某テレビ局のチャリティー番組でスペシャルアイスショーをするという企画に登場した羽生選手。演目は、「序奏とロンドカプリチオーソ」でした。北京オリンピックのショートプログラムでの演目です。羽生選手は、そのプログラムを滑るにあたり、「北京オリンピックでミスしてしまったある意味「心の傷」。だからこそ自分はまた改めて挑戦したいなと思いました」と語りました。そして、張り詰める空気の中、ノーミスで、すべての要素がパーフェクトな「序奏とロンドカプリチオーソ」を滑り切りました。滑り終えた後は、やり切った達成感と過去の自分の心の傷を乗り越えた安堵感からガッツポーズを思い切り振り下ろしました。努力に努力を重ねて一番スケートがうまくなっていたはずの自分の思いがけないミスが深い「心の傷」(心的外傷(トラウマ))となり、羽生選手自身怖くてなかなか踏み出せずにいたプログラム。最後に「やっと、これを乗り越えてまた前に進めるなって僕自身が思えた」と結びました。怖さを払拭して心の傷に向き合い、乗り越える心の強さ、負けない心に私も励まされました。

人生は、誰にとっても平坦ではなく、思いがけない失敗や困難なことに直面して、前に進めなくなったり、もう二度と向き合いたくないと思ったりすることがありますね。羽生結弦選手の心の傷とは比べ物にならないくらいちっぽけですが、私も同じように心の傷となった経験がいくつもあります。例えば、小学校の5年生の時に古式泳法という泳ぎを習っていて、川の流れに逆行して泳いでいた影響もあり、流れのない普通のプールでは、他の子に比べて泳ぐタイムがとても速かったことから意に反して競泳の県大会に数種目エントリーすることになり、結果、最初の種目で順位が6人中の6位と振るわず(競泳をやっていたわけではないので当然の結果なのですが…)、その後のエントリーの種目をすべて棄権してしまったことや、かつて高井戸西幼稚園(現高井戸西子供園)に担任として勤務していたときに、全園児とその保護者の前で弾けていたはずの園歌のピアノ伴奏(他の子供園の園歌の中では、群を抜いて難しい伴奏なのですが…)が途中から弾けなくなってしまい、数年の間、その園歌を人前で弾けなくなったこと等です。ピアノに関しては、その後弾くチャンスが何度もあり、やがて心の傷を乗り越えることができました。しかし、水泳に関しては、その結果や棄権経験が深い心の傷となり、泳げるのに泳ぐことが大嫌いになり、その心の傷を乗り越えることはできませんでした。もし、私が県大会で心の傷を負った後、誰かがその傷に気が付いて乗り越えるきっかけを作ってくれていたら泳ぐことをもっと楽しんでいただけたかもしれません。もちろん心の傷を乗り越えなければならないのは間違いなく自分、本人です。しかし、大人になっても心の傷に向かい合い、乗り越えることは、怖いことです。まして、それが幼ければ幼いほど負った心の傷に向かう恐怖心や苦手意識は払拭が難しいと考えます。

私たち、子供園の保育者は、幼児教育・保育のプロです。子どもたちにとって大好きな先生、憧れの先生の存在は意欲や心の安定に大きな影響を及ぼします。だからこそ、どんな子どもたちの心もぎゅっとつかんで、できることや好きなことだけではなく苦手なことや困難なこと、心の傷になっていることにも「がんばりたい!」「もう一度やってみよう」と前に進むきっかけとなり、「やってみたらできた」を繰り返しながら自信に満ち溢れた幸せな子どもたちを育てることができるよう資質向上に努め、いつも他を超越した幼児教育・保育のプロでありたいと考えます。



《今月の指導》

★3歳児 うさぎ組

2学期が始まり、うさぎ組の保育室に子どもたちの元気な声が戻り、久しぶりにうさぎ組のみんなと一緒に過ごす嬉しさを感じていたようです。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分のしたい遊びをしたり、保育者や周りの幼児がしていることに興味をもち関わろうとしたりする楽しさを感じる。
- 保育者や周りの幼児と一緒に体を動かす心地よさを味わう。
- 身の回りのことで自分ができることを自分でしようとする。

まだまだ暑い 9 月ですが、熱中症に気を付けながら水遊びをしたり、体操やかけっこをしたりして元気に体を動かしていきたいと思います。

★4歳児 くま組

2学期が始まり、子どもたちはくま組の友達と久しぶりに会えて嬉しそうにおしゃべりに花を咲かせていました。2学期も、一緒に遊ぶ嬉しさや、自分の思いを表現して遊ぶ楽しさを感じながら学級のみんなと過ごしていきます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- いろいろな遊びや友達のしていることに興味をもちながら遊ぶことを楽しむ。
- 学級の友達や保育者と一緒に、伸び伸びと体を動かす心地よさや楽しさを感じる。
- 生活に必要なことに気付き、自分でできることに取り組もうとする。

2学期から降園時間が 14 時になり、全員保育の時間が長くなります。体調に配慮しつつ、たくさん遊んだり活動したりして、園生活が十分に楽しめるようにしていきます。運動会に向けても、みんなで踊ったり体を動かしたりする活動を行っていきます。

★5歳児 ぞう組

2学期が始まりました。ぞう組の子どもたちは、友達との久しぶりの再会を喜ぶ姿がありました。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 友達と考えを出し合いながら、自分なりのめあてをもって遊ぶ楽しさを味わう。
- 自分の力を十分に出す心地よさや楽しさを味わう。
- 園生活に必要なことが分かり、自分たちで進めていこうとする。

運動会に向けて、リズム表現をしたり、友達と力を合わせて綱を引いたり走ったりして友達と一緒に体を動かす活動を繰り返し行っていきます。また、リズム表現の振り付けの相談や、係活動など、運動会という共通のめあてに向かって自分の力を十分に発揮できるようにしていきます。

園でたくさん体を動かすことで、疲れがでてくるでしょう。ご家庭でも休息をとりながら、心と体の調子を整えていきましょう。